

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい美園		
所在地	〒062-0007 札幌市豊平区美園7条3丁目4-24嘉指ビル2・3		
自己評価作成日	平成22年5月7日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502306&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目 北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族と、入居者、外部との関係を断ち切らない様に支援している。又、ゆっくり、のんびり生活出来る様に職員一同ケアに努めており、笑顔で笑いが絶えないような生活環境作りをしている。職員の外部研修にも力を入れ、職員のやる気の向上にも力を入れている。職員の意見は反映できる様に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「心、和のふれあい」を理念に掲げ、「心が穏やかで楽しい時間を一緒につくる」の目標どおり、利用者と職員は親しく談笑し、家庭的な雰囲気の中で明るく過ごしている。職員は「介護予防」の観点から、利用者一人ひとりの力量をよく見極め、出来ることは見守りながら支援し、能力の保持に努めている。毎月発行の「かわら版」は、個人の写真、担当職員や管理者のコメントを添えてプライバシーに配慮した個別対応の新聞として事業所での生活の様子を家族に知らせている。食事懇談会を開き、食事の希望等を聞きとり、希望を反映した食材の購入や、出前食を取る等の柔軟な食事支援を行っている。また、事業所主催の敬老会へ地域住民を招待し一緒に祝う、地域住民の訪問等、銭湯に行くなど、地域の一員としてその人らしい暮らしを続けるための支援と、地域交流に熱意を持って積極的に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念『心和』に加え、地域と交わりながら生活できるように日々取り組んでいる。	「和、心のふれあい、地域と交わる」の理念は、全職員で話し合い作りあげ、日々のサービス提供の中で常に理念の意義や役割を確認して共有を図りながら実践に努めている。	事業所のパンフレットに理念を表示することにより事業所と地域で理念の共有ができ地域密着型サービスが更に深まることが期待される。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事には積極的に参加している。又近所の方とも気軽に、お話ししたり、冬場は除雪等も一緒に行っている。	夏祭りや盆踊りなど町内の人を招待する、冬期間の除雪を一緒に行なうなどして地域の一員としての取り組みを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方にグループホームが有る事を知って頂いており、質問や相談等に答えている。又気軽に立ち寄って頂けるように声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合われている。	運営推進会議は定期的な開催は行っているため、会議出席メンバーによる意見交換によって具体的なサービス向上には活かされていない。	今年度5月に開催予定の運営推進会議は、報告が主な課題となっており、意見交換や助言をもらうなど会議の理解と支援を得る為に働きかけるよう努め、今後は定期的に開催されることが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の管理者会議等に参加している。	札幌市や豊平区の管理者会議やケア連絡会に参加して情報交換しながら、市の担当者と関わる機会を作り連携を図るように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠を行っているが、その他の身体拘束は当てはまる行為が無いが、職員同士で確認・話し合いを行っている。	身体拘束の外部評価研修に出席し、職員は報告をして全職員が共有して支援している。玄関は夜間のみ施錠し、日中は外出傾向な方には見守りや同行支援を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月生活の中で、職員全員が気を付けて接している。虐待に当てはまる行為が無いが話し合いを行っている。又、虐待について、勉強会も行っている。		

グループホーム あじさい美園 1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解していないが、会議等で話し合い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書をご家族と読み合わせ、十分にご理解や納得をして頂いてから書名・捺印をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、その他にも、ご家族や利用者からの意見を反映出来るように努めている。	毎月発行の「かわら版」にコメントを書き送って関係づくりに努めている。意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見や、提案を聞けるように努めており、反映出来るようにしている。	月1回の合同会議には管理者の他に運営に関わる職員も出席して発言できる機会を設けており、職員の声が運営に反映出来るよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヶ月に1度、職員の給与水準の見直しを行っている。又、勤務状況・労働時間も把握し、向上心を持って勤務出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修や、無資格の職員には資格取得を目指せるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等に参加し情報交換を行っている。		

グループホーム あじさい美園 1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限り、お話を伺い困っている事・不安な事・求めている事を傾聴し全職員に情報提供し、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に至るまでの経緯、困っている事、不安な事等を出来る限り傾聴し、ご家族と信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や、ご家族の状況から、何が必要か見極め、話し合い、必要であれば他のサービスも利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずに、共に同じ時間を共有し生活する家族とし生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずに、近況報告は随時行い、ホームの行事にも参加を呼びかけ、支えていく関係に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が使用していた物を持って来て頂き、本人の生活が大きく変化しないように努めている。又、本人宛の電話も繋いでいる。	家族や知人からの電話の取次ぎ、親しくなった近所の人への訪問、墓参りの同行支援、家族が宿泊できるよう居室の確保をするなどして馴染みの関係が継続できる場面を積極的に作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う人、合わない人は十分承知しているので、状況に応じて席替え等も行い、孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも連絡を取れる様にしている。又、困っている事があれば協力体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々のケアの中、本人の思いを受け止める様に努力している。毎日の申し送りの中で情報の共有を行い、カンファレンスやホーム会議で再検討している。	日々の関わりのなかで言葉やしぐさ、表情から気持ちを推し測り、把握に努めている。情報を職員間で共有して個々人の意向に即した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記録を元に把握に努めている。ご家族にアンケートや、センター方式の記録用紙を渡し、記録して頂き把握。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録には個人の生活の様子を細かく記録に残す事を徹底している。個人の変化も見逃す事無く記録に残し、職員全員が共有できる様に動いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察、意見、アイデアを取り入れた介護計画を作成している。又、本人だけでは無く、ご家族とも協力し合い介護計画の作成に努めている。	3ヶ月ごとのモニタリングをして本人や家族の意向や状況を把握。カンファレンスで意見交換して本人本位の介護計画の見直しをしている。状態変化時は随時カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残しており、全職員で共有出来る様にしている。又担当者が情報を収集し、カンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。状態に変化が見られた場合にはその都度見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に合わせて柔軟な支援が行えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力の元、買い物や、理容店等に行ったり、近所の方と交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診で健康管理がなされている。結果については、特変があれば家族連絡を行い、適切な医療を受けられる体制に努めている。	2週に1回、内科医の往診を受け健康管理に努めている。定期的に歯科医の往診もある。受診時は通院をして適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム あじさい美園 1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か有れば、看護師に相談したり、提携医療機関に相談し、適切な受診や、医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻りに病院へ行き病院関係者と早期に退院出来る様に話し合っている。又、協力医からも連絡が密に入り本人の状況など情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事を明確にした上で、ご家族・医療機関の先生と話し合いの場を持ち、支援出来る様に努めている。	終末期ケアについての具体的な方針はないが、全職員が終末期対応を話し合い共有した上で看取りを実施している。	重度化や終末期に関する指針書を作成して本人、家族の意向を確認して方針の共有を図り、安心と納得が得られるよう取り組むことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で訓練を受けている職員から初期対応等を学んでいる。又、順番に講習にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を日中と夜間想定で行っている。	災害時訓練は日中と夜間想定を実施している。各ユニットに災害時に備えた備品を準備しているが地域住民の協力体制は構築されていない。	現在、災害訓練に地域住民参加を計画中とのことである。緊急連絡網の中に地域住民が参加出来るような協力体制を構築されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人のプライドを大切に、言葉かけやトイレ誘導などもさりげなく行う様に努めている。	プライバシーを損ねないよう声かけ等にも細心の注意をして対応している。記録なども個人情報に配慮して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来る様に、言葉かけにも気を付けて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意見や、要望は取り入れ、無理なく楽しく生活出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に応じて理容・美容室に同行している。又、おしゃれが楽しめるようにしている。		

グループホーム あじさい美園 1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れた献立を作成しており、利用者の力量やその日の状況に合わせて、下ごしらえや、食器洗い、食器拭き等をして頂いている。	食事懇談会で個人の嗜好を把握してメニュー委員が献立に活かしている。買い物、後片付けなど力量に応じ力が発揮出来るよう場面作りをして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表を付け、利用者の食事量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを職員と共に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンや状況などを記録に残し、職員全員が共有出来る様にしている。又失敗しても自尊心を傷つけないように配慮している。	排泄チェック表を使用して排泄パターンの把握に努め、プライバシーに配慮してトイレ誘導し、自立を促す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中はヨーグルトを取り入れたおやつを提供しており、食事も野菜を多く取り入れたメニューにし、運動不足にならない様に毎日の体操や散歩を習慣にし取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施しており、体調や状況に合わせて、好きな時に入れる様に工夫している。又、職員と銭湯等にも行っている。	入浴は週2回を目途に体調や状況、個人の好みに合わせて入浴支援をしている。利用者の希望に応じて近所の銭湯に職員同行で出かけるときもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や、状況・状態に合わせて休息して頂けるようにしている。又、夜間安心して眠れる様に日中の活動出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容・用量は全職員が把握に努めており、協力医や、薬剤師の方の支援を受けながら、内服後の変化等に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から話を聞き、やりたい事が有れば出来る様に支援している。盆踊りには浴衣を着たり、気分転換にドライブをしたりしている。		

グループホーム あじさい美園 1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、散歩買い物、外食などに行っている。	買い物、ドライブ、散歩、外食など個人の楽しみごとに合わせて戸外に出かける機会を多く作り、気分転換の機会として活かし、外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、ご家族と相談し、管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	共有スペースに電話出来る様に支援している。又、ご家族に絵手紙などを送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節毎の飾りや写真を掲示している。トイレの場所が分かる様にプレート設置したり、個人の居室には写真を貼っている。	共有の空間には利用者の作品や写真が飾られ心が和むフロアの中で利用者と職員が談笑していて家庭的な雰囲気でも過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士、気軽に談笑できる様に支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く生活出来る様に努めている。状況・状態に変化が見られた場合には、その都度ご家族と相談し居心地の良い環境作りに努めている。	広い居室には馴染みの家具や調度品が持ち込まれ家族の写真も貼られていて、その人らしい居室となっている。希望により配置替えすることもあり、居心地良く過ごせるよう柔軟に対応し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力量に応じて自立した生活が出来る様に支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502306		
法人名	株式会社ケアプロダクツ		
事業所名	グループホームあじさい美園		
所在地	札幌市豊平区美園7条3丁目4-24嘉指ビル2・3		
自己評価作成日	平成22年5月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>一人ひとりの有する力を大切にし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう、全職員が本人本位の支援を心掛けています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を「心和」、目的を「心」のふれあいを大切に地域と交わる、「和」のふれあいを大切にケアにあたる、としており、全職員が理念と目的を去有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事(お祭りや盆踊り等)への参加、町内会の方を招いての敬老会の開催。地域の一員であることを意識して交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談の電話や内覧時などに必要に応じて助言をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方から意見や提案をいただいたり、情報交換をすることにより、今後のよりよいケアにつながるように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の管理者会議等に参加している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度のカンファレンス時に話し合いの場を設け、身体拘束のないケアに努めている。玄関の施錠は不法侵入や盗難防止のために夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止への意識がうすれないよう、虐待防止についてのポスターを目につきやすい場所に掲示している。また、ボディチェックを徹底している。わかりやすい場所に苦情箱を設置している。		

グループホーム あじさい美園2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会や話し合いの場はもたれておらず、制度に対する理解度が極めて低いため、今年度中に内部研修を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の電話対応時や内覧時に大まかな説明を行い、契約時には契約書と重要説明書を本人やご家族と読み合わせをし、不安や疑問なくご理解・ご納得いただけることを確認のうえ署名と捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時等、随時ご意見やご要望があった際には早急に話し合いの場を設け、迅速な対応を心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ひと月に一度開催されるユニット会議や合同会議の際に機会を設けている。また、日常的にも職員が意見や提案を発言できる就業環境であり、その維持に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休業制度、介護休業制度がある。また、希望時に有休休暇制度を使用できるよう努めている。給与に関しては年に2回、賃金の改定を行っている。また、勤務表作成時には休み希望日がないかの確認をし、希望にそえるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修委員会による内部研修を実施している。内部研修の内容は、職員から学びたいことを聞き取りのうえ決定している。外部研修については研修案内を回覧し、参加希望の職員には参加の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、外部研修への参加により交流を図り、サービスの質を向上させることに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをもとに職員間で情報を共有し、対応を統一することにより、不安や混乱を最小限にし、安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望等には常に耳を傾け、曖昧な返答はせず、対応は迅速にし、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、専門職としての視点から必要な支援を見極めている。また、必要があれば他のサービス利用の提案や助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行っていただき、自立支援を念頭において関わりをもっている。また、喜怒哀楽をともし、信頼関係の構築を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時だけでなく手紙や電話で随時連絡を取り、本人の情報を共有することに努め、ともに本人を支えあう関係としての信頼関係の構築を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族からの情報をもとに、馴染みの関係を継続できるよう外出や仲介に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や中核症状・周辺症状の把握に努め、トラブルがおきないように配慮している。また、孤立することのないよう、交流の場を設けて話の仲介を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いてきた信頼関係を大切に考え、また、地域の一員としても、相談や支援に努めることを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリング、日常の関わりを通して希望や意向の把握に努めている。また、どのような場面においての支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	本人やご家族、関係機関からの情報収集に努め、新たな情報とともに職員間で共有し、支援に活かせるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が日々の詳細な記録と記録内容の把握に努めている。また、状態は変化するものであることを意識して日々の観察を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察から把握できた現状とともに、本人やご家族の意見、必要に応じて医師の助言も含めてカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。また、現状に変化が生じ、介護計画に見直しが必要な場合には緊急カンファレンスを開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と経過記録の記入を行っている。また、朝・夕にケース記録の内容の申し送りを行っており、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況の把握に努めて必要な支援を見極め、柔軟な支援ができるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では消防署の協力を得ている。また、豊かな暮らしを楽しむひとつとして、行事に地域ボランティアを招いて交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に提携医療機関の往診を受けている。また、その他の医療機関の受診・往診においては本人やご家族の希望にそえるよう努め、かかりつけ医との関係づくりを大切にしながら適切な医療を受けられる体制を整えている。		

グループホーム あじさい美園2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関との情報の共有を徹底しており、連絡や相談は随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を大切に考えており、情報交換や相談を随時行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のありかたについての話し合いや取組みは行われていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行われていないが、マニュアルは作成されている。また、内部研修にて個別のリスクマネジメントを行い、事故の発生から対応までの話し合いを随時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけでなく夜間想定避難訓練を実施している。また、今年度は最低4回の避難訓練を予定しており、地域住民参加の訓練も行えるよう検討中。訓練実施後には反省会を行い、改善策・対策案の検討をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	秘密保持の徹底に努めている。また、「その人らしさ」を大切にしており、誇りやプライバシーを損ねることのないような支援の仕方を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望の確認に努めている。また、自己決定できるような言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者主体であることを念頭におき、個々のペースを大切にケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容室や馴染みの美容室の利用が出来る様に支援している。		

グループホーム あじさい美園2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には嗜好品や入居者の意見を反映させている。また、有する力に応じた準備や後片付けを共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を把握し、栄養・水分の確保に努めている。また、食事内容に配慮が必要な入居者には個々に応じた食事の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	声かけや見守り、一部介助などにより、毎食後に口腔ケアが行えるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、排泄の自立につながるよう意識してトイレ対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況のチェックをしている。また、便秘予防のためにヨーグルトを提供したり、体を動かす機会を設けている。水分摂取量や食物繊維の摂取に配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日と時間が決まっているが、本人が、本人が入浴を希望されなかった場合には日程や時間の変更をして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望時や傾眠がちな時には自由に居室で休息をとれる環境が整っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者ごとの薬の効能や副作用について理解が深まるよう職員研修として資料作りを行った。また、服薬支援方法の変更や症状の変化については記録と申し送りにより職員間で情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりを通して、やりたいことや好きなことを把握し、介護計画に反映させたり、余暇を利用して取り組めるよう支援している。		

グループホーム あじさい美園2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食など本人の希望にそった外出支援を日常的に行っている。また、外出レクなどの行事もあり、気分転換や地域とのつながりが継続されるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には自己管理をさせていただいている。また、金銭トラブル防止のため、お小遣い帳の記入を行っている。金銭の使用については、個々の希望や有する力に応じて、安全に使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話を使用できるよう支援している。また、希望があれば手紙の代筆や代読を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員会を設けており、毎月、掲示物や写真の変更を行っている。また、季節感のある装飾や室温・湿度、照明の明るさへの配慮を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファ、廊下にはベンチを設置して談笑スペースを設けている。また、自由に居室で過ごすことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真、家具置いている。また、希望時には模様替えや必要に応じた家具の配置変更を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かりやすいように名前入りの写真を扉に貼っている。また、トイレの案内プレート設置、転倒防止のための手すりの設置をしている。トイレの扉は施錠可能なものとアコーディオンカーテンの2種類がある。		